

平成 30 年度 第 3 回とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 議事要旨

日時：平成 31 年 2 月 13 日（水）

13:30～15:00

場所：富山県庁 4 階大会議室

■ 出席者

【委員】

上坂委員、梅木委員、大野委員（代理：村田市民生活部長）、沖委員、木内委員、楠井委員、田瀬委員、永森委員（代理：藤井企画監）、南部委員、藤井委員、藤本委員、横越委員

【事務局】

須河生活環境文化部長、今井生活環境文化部次長、松本県民生活課長 ほか関係課担当職員

.....

■ 会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 「とやま 21 世紀水ビジョン」の見直しについて

(2) その他

4 閉 会

.....

(1) とやま 21 世紀水ビジョンの見直しについて [事務局説明]

【委員】

海域における水質（22 頁、23 頁）について、環境基準という言葉が出てくるが、環境基準がどういう値かが出ていない。

また、たくさんデータがあるが、調査地点の位置がわからない。

流域の説明について、射水平野と氷見市、射水平野は昔から低湿帯で配水池を備えた水の調整をしていたり、現在もそういった機械の設備の更新などが行われており、氷見の方は低い山、宝達丘陵から短い河川がたくさん流れ込み、昔から地すべりが多いところで、水の影響を受けやすい。そういった地域のことも触れておけば、全県的な流域の状況がわかるのではないかと思う。

【事務局】

海域の調査位置については、図面をつけたるなどして工夫したい。射水平野と氷見市については、追加して記載させていただきたい。

【委員】

利用できる水の量のグラフ（28頁）について、もしデータの把握が可能ならば、富山県の値を示せばいいのではないか。

【委員】

世界的な水問題への取り組みについて、国際水門地質学会、前回終わったあと、なかなかアピールできる関連学会が今のところない。熊本県が来年、アジア・太平洋水サミットの開催することになったようなので、5年後ぐらいに富山県でもぜひ誘致すればいいのではないか。

【委員】

水の多面的活用、小水力発電の項目のところに富山県が全国第2位の包蔵水力をもっているということに触れておけば、推進するということに繋がりやすい。

【委員】

河川末端における水質（BOD）年度別推移について、環境基準100%達成とするだけでなく、類型がより上の類型に上がっていているということにも触れたほうが、水質改善をアピールできる。

【委員】

これから一番問題になるのは、次世代にこの豊かな環境をどう繋げていくかといったこと。そういったことも今回この水ビジョン中でも非常によく網羅させていると思うので、ぜひともこの方向で推進して欲しい。

若年層の方にも素晴らしい県に自分たちは生活しているんだということが浸透するような方向に進めばいいと思う。水ビジョンをどう機能させるかが大事である。

【委員】

最近、海洋プラスチック汚染の問題が非常に問題になっているが、川がゴミの運搬媒体であるということもあるので、川をきれいにしようということを1つ入れておけばいいのではないか。

(2) その他について [事務局説明]

【事務局】

本日の会議も踏まえ、今後、最終的な仕上げを行い、3月中には水ビジョンの改定を終了、4月から新ビジョンをスタートさせたいと考えています。

以 上